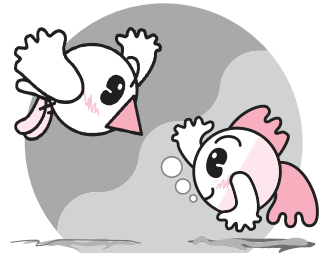


やとみの福祉



第18号

http://www.shakyo.or.jp/hp/1069/

発行日／平成 26 年 8 月 発行・編集／社会福祉法人 弥富市社会福祉協議会

障害者優先調達推進法をご存知ですか！

チャレンジハウス弥富自主製品



缶(小~大) 400円~800円 ティッシュカバー 300円



アームカバー 300円 ランチョンマット 300円

『チャレンジハウス弥富』と『地域活動支援センター十四山』では、それぞれ自主製品を販売しています。

弥富市健康フェスタ等での出張販売やそれぞれの事業所でお買い求めいただけます。

法人様の販促品等としてのご利用も可能ですので、お問い合わせください。

地域活動支援センター十四山自主製品



ぞうきん2枚入り 120円



すだれ 300円~



コースター 350円



ふきん 400円

【目次】

- ◆ 平成 26 年度事業計画 / 役員紹介…………… 2
- ◆ 平成 26 年度予算 / 会費お礼…………… 3
- ◆ 平成 25 年度決算 / ボランティア保険…………… 4
- ◆ 福祉体験作文コンクール入選…………… 5
- ◆ 成年後見制度とは…………… 6
- ◆ 成年後見講座 / 成年後見制度専門相談…………… 7
- ◆ ひまわり会通信 / 弥富北中高齢者疑似体験…………… 8
- ◆ なごみの会 / 夏休み企画…………… 9
- ◆ ボランティア講座 / 西尾張ブロックボラフェス / 施設紹介…………… 10
- ◆ チャレンジハウスだより / 地域活動支援センター十四山だより…………… 11
- ◆ 求人募集 / 心配ごと相談所 / 寄付のお礼…………… 12

数字で見る弥富市の福祉（平成 26 年 5 月 30 日現在）

・人口	44,490人
・世帯数	16,633戸
・老年人口（65歳以上）	10,345人
・老年人口率（65歳以上の人口比率）	23.3%
・要介護認定者数	1,128人
・要支援認定者数	502人
・身体障害者手帳所持者数	1,402人
・療育手帳所持者数	269人
・精神障害者保健福祉手帳所持者数	222人
・年少人口（14歳以下）	6,310人
・年少人口率（14歳以下の人口比率）	14.2%

【弥富本部】 〒498-0021 弥富市鯛浦町上本田 9 5 番地（弥富市総合福祉センター内）

TEL 0567-65-8105

FAX 0567-65-8002

E-Mail yatomi-shakyo@clovernet.ne.jp

・社会福祉協議会事務局

TEL 65-8105

・弥富市共同募金委員会

TEL 65-8105

・なでしこ指定居宅介護支援事業所

TEL 65-8103

・なでしこ指定訪問介護事業所

TEL 65-8106

・なでしこ指定障害者相談支援事業所

TEL 65-3724

・チャレンジハウス弥富

TEL 65-8008

【十四山支部】 〒490-1413 弥富市子宝六丁目 8 0 番地（弥富市十四山総合福祉センター内）

TEL 0567-52-3425

FAX 0567-52-3811

E-Mail yatomi-shakyo-j@dune.ocn.ne.jp

・地域活動支援センター十四山

TEL 52-3425

平成26年度 弥富市社会福祉協議会事業計画

「人にやさしい住みよい福祉のまちづくり」

- ・大規模災害に備えた体制の整備を強化してまいります。
- ・障害者相談支援事業を迅速に取り組める体制づくりを行います。
- ・判断能力が不十分な方々を、法律面や生活面で保護・支援するため成年後見制度の内容や活用方法、申し立てに関する相談事業を行います。
- ・施設部門において、利用者の利便性を図るため、10月より送迎事業を実施し、より一層の福祉サービスの向上に努めてまいります。

○主な事業内容

・地域福祉活動推進部門

- ① 中学生、高校生の福祉体験学習
- ② 各種団体の活動費助成、事業の計画、実施の援助〔福寿会連合会・遺族会・子ども会・身体障害者福祉会・ひまわり会・母子福祉会・共同募金委員会・民生委員協議会〕
- ③ 敬老会開催
- ④ 金婚式開催
- ⑤ 戦没者追悼式開催
- ⑥ 共同募金配分金事業
 - ・ひとり暮らし高齢者『ふれあい昼食会』
 - ・障がい児・者機能回復訓練
 - ・母子・父子親子体験
 - ・児童・生徒会の育成
 - ・ボランティア活動の育成
 - ・福祉協力校事業で福祉実践教室等の実施
 - ・災害ボランティアセンター事業
- ⑦ 歳末たすけあい事業

・施設福祉部門

- ① 『チャレンジハウス弥富』経営
- ② 『地域活動支援センター十四山』経営
※10月より送迎事業を実施

・法人運営部門

- ① 理事会・評議員会の開催、会員の募集等
- ② 社協広報紙「やとみの福祉」の発行
- ③ 心配ごと相談所開設、罹災見舞、寄付者等の顕彰、車いす等の短期貸出
- ④ 生活福祉資金貸付、くらし資金貸付
- ⑤ 共同募金委員会の運営

・在宅福祉サービス推進部門

- ① 居宅介護支援事業所
 - ・居宅介護支援（サービス利用等の相談、ケアプランの作成）
- ② 訪問介護事業所
 - ・訪問介護（要介護者宅にヘルパー派遣）
 - ・居宅介護（障がい者宅にヘルパー派遣）
 - ・自費ホームヘルプサービス事業

・福祉サービス利用支援部門

- ① 障害者相談支援事業所
 - ・障害者相談支援（サービス利用等の相談、サービス等利用計画の作成）
- ② 成年後見事業
 - ・成年後見相談事業開始
 - ・成年後見講座実施

会長
あいさつ



弥富市社会福祉協議会

会長 八木 輝美

このたび、任期満了に伴う会長選任の理事会において、本会会長を再任させていただくことが可決承認されました。

これから関係機関の皆様方の御指導、御協力をいただきながら職責を務めてまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

新役員紹介（敬称略）

任期 （平成26年5月6日）	監事 水谷みゆき	監事 伊藤昭三	理事 伊藤健二	理事 加賀美求	理事 宇佐美恒夫	理事 児玉日佐美	理事 片岡明功	理事 伊藤芳樹	理事 福田朝子	副会長 浅野美喜子	会長 八木 輝美
-------------------	-------------	------------	------------	------------	-------------	-------------	------------	------------	------------	--------------	-------------

平成25年度 弥富市社会福祉協議会 決算報告

【資金収支計算書】

勘定科目		決算額
福祉施設特別会計	収入	就労支援事業収入
		3,301,571
		障害福祉サービス等収入
		28,581,795
		補助事業等収入
		11,669,850
		事業等収入
		13,718
		寄附金収入
		44,170
		共同募金配分金収入
		28,000
		事業外収入
		21,080
	支出	受取利息配当金収入
		1,107
		区分間繰入金収入
		4,800,000
		前期末支払資金残高
		6,968,719
		合計
		55,430,010
	支出	就労支援事業支出
		3,301,571
		人件費支出
		32,953,528
		事務費支出
		853,651
		事業費支出
		905,493
		負担金支出
		46,000
		会計単位間繰入金支出
		5,500,000
		区分間繰入金支出
		4,800,000
		その他の支出
		1,340,280
		合計
		49,700,523
	当期末資金残高（次年度繰越金）	
	5,729,487	

(単位：円)

勘定科目		決算額
一般会計	収入	会費収入
		3,818,305
		寄附金収入
		853,007
		市補助金収入
		23,000,000
		受託金収入
		14,573,228
		共同募金配分金収入
		2,201,348
		貸付事業等収入
		424,500
	支出	事業等収入
		428,800
		介護保険収入
		26,021,475
		障害福祉サービス等収入
		9,140,368
		受取利息配当金・雑収入他
		1,058,814
	支出	会計単位間繰入金収入
		5,500,000
		区分間繰入金収入
		6,358,000
		前期末支払資金残高
		30,762,062
		合計
		124,139,907
		人件費支出
		71,477,929
		事務費支出
		2,918,007
		事業費支出
		12,629,458
		貸付事業等支出
		365,000
		助成金支出
		3,033,200
		負担金支出
		418,520
		経理区分間繰入金支出
		6,358,000
		固定資産取得支出及び繰入支出
		1,404,099
		その他の支出
		3,013,920
		合計
		101,618,133
	当期末資金残高（次年度繰越金）	
	22,521,774	

ボランティア活動保険のご案内

加入申込者(加入できる方)

- ① ボランティア個人またはボランティアグループ
- ② 特定非営利活動法人(NPO法人)(認証通知書の写し、または確認が必要です。)

補償の対象となる事故

① 傷害事故

ボランティアがボランティア活動中の急激・偶然・外来の事故によりケガをした場合に保険金をお支払いします。



(1) ボランティア活動中に転んでケガをした。



(2) ボランティア活動に向かう途中、交通事故にあった。



(3) 活動中、食べた弁当でボランティア自身が食中毒になった。

② 賠償事故

ボランティアがボランティア活動中の偶然な事故により他人にケガをさせたり、他人の物を壊したことにより法律上の損害賠償責任を負った場合に保険金をお支払いします。



(1) ボランティア活動中、誤って他人にケガをさせた。



(2) 家事援助ボランティア活動で清掃中、誤ってガラスを割った。



(3) ボランティア活動での後片付け中、誤って他人にケガをさせた。

補償内容

A・B・Cいずれかのプランをお選び下さい。

	保険金の種類	保険金額(補償の金額)		
		Aプラン	Bプラン	Cプラン
傷害事故	死亡保険金			
	後遺障害保険金	1,100万円	1,500万円	2,000万円
	入院保険金日額(1日につき)	6,500円	7,500円	8,000円
	通院保険金日額(1日につき)	4,500円	5,000円	5,500円
賠償事故	対人・対物共通人格権侵害	5億円(限度額)		

掛金(年間)	Aプラン	Bプラン	Cプラン
基本プラン	250円	300円	350円
天災プラン	(80円増) 330円	(100円増) 400円	(130円増) 480円

基本プランに天災プラン(天災危険担保特約、入院保険金・手術保険金日数延長及び通院保険金支払対象期間延長特約、第三者加害行為等による障害賠償額支払特約)の追加が可能です。

問い合わせ先 TEL 65-8105

福祉体験作文コンクールで入選

愛知県社会福祉協議会主催による『平成25年度福祉体験作文コンクール』において、十四山東部小学校6年（当時）河村如乃（かわむらゆきの）さんの作品が優秀作品に入選しましたので、ご紹介します。

兄の体験を通して

十四山東部小学校 六年 河村 如乃



「だいたい、何を話しているの？」
「あら、お帰り。今、お兄ちゃんも帰って来たところなんだけど、お兄ちゃん今朝から大変だったらしいよ。」
と祖母が言ったので、私にももう一度話してくれるよう頼んだ。そこで兄は静かに話を始めた。

今日の朝のことだ。ぼくはいつも通り友達と三人で地下鉄に乗っていた。車道に到着しホームに降りた時だった。となりの出口から降りた一人のおばあさんが、フラつきながら歩いていったんだ。そこでぼく達は誰からともなくおばあさんに向け寄り、声をかけたんだ。するとおばあさんは、

「大丈夫ですよ。ありがと。」

改札に向かう上りエスカレーターに向かって歩いていったんだ。ぼく達も安心し、少し後ろから、いつも通り三人で話をしながら歩き始めた。するとその時、前方でガタンと音がしたかと思ったら、エスカレーターの中から

ら後ろに倒れたおばあさんが頭から血を流しているじゃないか。朝のラッシュで周りにはたくさんの人がいたのに、みんなよけて歩いたり、ただながめたりしている。ぼく達は、すぐに駆け寄り、ぼくともう一人の友達でおばあさんの体をかかえ、あと一人は急いで駅員さん呼びに行った。ぼくは、
「誰か救急車を呼んで下さい！」
とさげ、

「おばあさん、しっかり、しっかり。」
と夢中で呼びかけ続けた。もう一人の友達は、その間脈を見たり傷口をおさえたりしていた。彼の手は、おばあさんの血で染まっていた。やがて何人かの駅員さんが駆けつけて来た。その内の一人が、ぼく達に向かって、

「君達、ありがと。よくやってくれたね。」

あとはおじさん達にまかせて、手を洗って学校へ行きなさい。本当にありがと。」

と、交代しながら言ってくれた。ぼく達はおばあさんのことが気になったが、血に染まった友達の手を洗うことも大事だったので、
「じゃあ、おばあさんのことをお願いします。」
とその場を立ち去ることにした。あとは、トイレで手を洗い、学校へ向かったという訳さ。

兄はここまで一気に話すと、お茶を一口飲んだ。私は、気になって聞いてみた。

「それで、そのおばあさんはどうなったの？」
やはり兄も心配だったらしく、学校の帰りに駅で朝のことを尋ねたらしい。すると、駅員さんは、おばあさんが頭に傷はおったものの

無事だったことを教えてくれたそうだった。そして、駅員さんは、兄達にとっても感謝していたらしい。そこで私は、

「そうだよ。お兄ちゃん達すごい。」と手をたたいた。けれど、兄は表情を変えず、

「ぼく達がしたことは、当たり前のことだと思っ。何より、おばあさんが助かって良かった。」

と言いながら、何か不満そうな様子だったので、私は、

「ねえ、どうしたの？」

と聞いてみた。すると兄はこう答えた。

「なぜあの時、ぼくら以外にもたくさんの人達がいたのに、誰も何もなかったんだろう。ぼくはそれがぐちゃいんだ。」

そうか、そうだったんだ。朝から人助けという素晴らしいことをしたのに兄がうかない表情だった訳がようやく分かった。兄は、たとえ見知らぬおばあさんでも、自分の大切な祖父母だったらと思うと、何かせずにはいられなかったに違いない。けれど、そう考える人が果たしてどれくらいいるのか？私もそうだ。

『福祉』とか『ボランティア』って、特別なことではなく、自分や自分の大切な家族におきかえて、周りの人のことを思うことから始まるのではないか。私は兄のこの体験を通して、そんなことを考えるようになった。人助けは自分助け。お互い様の気持ちだと思う。

